里親家庭の子どものピアサポート活動

山本　真知子　准教授
（人間関係学部　人間福祉学科）

１．プロジェクトの目的

近年、虐待などさまざまな理由で実の家庭で生活できない子どもたちを家庭で養育する里親やファミリーホームが注目されています。日本では里親やファミリーホームを増やすために様々な取り組みを行っており、里親家庭で生活する子どもも年々増加しています。本プロジェクトは、NPO 法人東京養育家庭の会の支部と東京都児童相談所等と連携し、里親やファミリーホームの子どもたちが他の家庭の子どもや学生とのつながりを持つ「子どもスペシャル」の実施や「里親家庭の実子の会」を行いました。他の里親家庭の子どもとの関係を作り、相互交流を深めることを子ども側の目的とし、学生にとっては社会的養護の理解、子どもの理解、児童相談所や児童福祉施設とのつながり、他大学生との交流等の学習機会を得ることを目的としています。

２．プロジェクトの概要

9 月 2 日に「里親家庭の実子の会」を高尾の森わくわくビレッジにて行いました。子どもの参加人数が少なかったため、参加学生は 1 名で、その他ファシリテーターが参加しました。当日は小学生の里親家庭の実子と工作や風船等で遊んだり、話し合いを行ったりしました。


クラフトの様子


話し合いの様子

また、11 月 23 日に「子どもスペシャル」を Nature Factory 東京町田にて行いました。駅から遠方であることや翌日の準備も兼ね、学生は前日から現地に宿泊し実施をしました。学生の参加は大妻女子大学人間福祉学科の山本ゼミ 4 年生 9 名、3 年生 10 名が参加しました。その他の参加者は、里親、里子、里親家庭の元委託児童（OG/OB）、児童相談所職員、乳児院・児童養護施設の里親支援専門相談員、里親支援機関の職員、ファシリテーター、他大学の学生、総勢 100 名を超える人数でした。

子どもスペシャル当日は、幼児・小学生の子どもたち約 30 名の活動を他大学の学生とともに行いました。1 か月前にクマが会場近くに出没したため安全を配慮し、室内でミニ運動会やクラフト作成を行いました。ミニ運動会では、パン食い競争やしっぽ取りゲームを行いました。中学高校生の子どもたちが昼食を作ってくれたものをみんなでいただきました。

中学高校生は、午後里親家庭で育った経験者の方からお話をうかがい、自由にこれからの生活のことや今抱えている気持ちをファシリテーターと共に話す時間を持ちました。



参加した学生の様子



学生のチーム対抗のしっぽ取りゲーム

３．プロジェクトの成果

本プロジェクトを行うことによって、子どもたちの横のつながりができることがとても大きな成果でした。子どもたちは普段は学校も異なり、住んでいる地域も離れていることで交流することは難しいため、子ども同士が交流できる機会があることは非常に大切です。また、学生にとっては実際に里親家庭の子どもと接することで、それまでの机上だけの学びのイメージを変えることができ、児童相談所や児童養護施設等の社会福祉専門職との出会いから学ぶことができました。今年度は卒業生も参加し、先輩と後輩のつながりを持つことができました。

４．今後に向けて

本プロジェクトに参加した学生からは「午前と午後とで子どもたちの関係性や表情に違いがみられて非常に勉強になった」という声や、「第三者という独立した立場でありながら、子どもの権利や社会的養護などについて十分な知識理解を有し、専門的なスキルを持つファシリテーター養成の必要性を感じました」といった感想が聞かれました。大学の学びだけではなくプロジェクトに参加することで学びが深まる様子もあり、社会福祉士等の実習にも発展させることができました。実際にこの活動を通して、児童相談所や里親支援に携わる就職を目指す学生もいます。

児童相談所や里親からも、学生に安心して任せていられるといった声や、今後も継続してこの活動に参加してもらいたいといった声も聞かれました。この活動は経済的な支援や人材的な支援が非常に必要であり、どの地域でも里親家庭のこどもの横のつながりが持てるわけではありません。地域と連携して大学にある資源等を活用することで、子どもたちとの関わりを持つことができています。地域と連携することで、社会への貢献と学生にとっては学ぶ経験ができる双方にとって価値のある活動となっています。今後も子どもたちの意見を取り入れ、里親や児童相談所等と連携し継続して活動していきたいと考えています。